基調講演

エステティックと地域の繋がり

坂元　みどり　一般社団法人日本エステティック業協会理事

41年変わらず、人の口に戸を立てられない地方都市で営業するには二つの心構えが要りました。
①後ろ向きマイナス発想、心配性で悲観的に仕事をする。
②「きちんとした」社員を育てる。

その理由は、「これくらいは許されるだろう」という楽観主義では、仕事が甘くなり、どこかで誰かと繋がっている狭い世間では悪い噂があっと言う間に広がってしまうから。「社員」がきちんとしていなければならないのは、会社の方針が良くても、実際に体現していくのは社員だからです。

「きちんとした」社員育成の為に、我が社では「躾」と「教育」を行います。
「躾」とは、人として出来て当たり前の振る舞いが当たり前に出来るようにすること、又、「当たり前」のレベルを高くすることです。新入社員の導入研修で「躾」ます。「躾」が身に着いたら、知識・技術習得の教育に進みます。どちらが欠けても「きちんとした」社員とは言えないので、「躾」担当のインストラクターと、現場で直接お客様に向き合っている教育指導部が新入社員の育成に当たります。高齢化の進む地方では働き手が少なく、人材確保は常に大きな課題なので、新入社員を短期促成栽培しなければなりません。しかし、やっとお客様を任せられるようになった頃には、結婚・出産、数年で入学・受験、落ち着いたと思ったら介護が始まります。我が社では毎年スタッフの10%は産休育休中、ママエステティシャンが34%。介護休暇を取る社員も少なくないので、次から次に育てなければなりません。そうして苦労して育てた社員の先にお客様の存在が有り、そのお客様全ては地域そのものです。社員が直接地域と繋がっている訳ですから、売り上げは地域の信頼を得た後上がるもの。私達地方の人間に取って業績は地域での信頼のバロメーター。悲観的な目で見て厳しく仕事をしていると確信できてはじめて、地域に受け入れられ、「美容」を通して社会貢献できた、と判断しても良いと思います。

「エステティシャン」は、「美容」を通して人を幸せにする素晴らしい職業ですが、勤続年数が短いとも言われます。働き易い環境を作る会社の責任と、夢を持って沢山の若者が入って来、人の役に立つ誇り高き仕事であると胸を張って言える職業にする事でエステティックを発展させて行けると思います。

略　歴

昭和51年株式会社アルファイン代表取締役就任現在に至る
CIDESCO、AEAインターナショナルエステティシャン
FIT（ニューヨークファッション工科大学）イメージコンサルティングコース履修
NSCA-cpt（NSCAパーソナルトレーナー資格）普通救命技能講習修了